

新たな技術を活用した取組について

1 現状・課題

- ・適切な森林管理を進めるためには、立木本数や樹高などの森林資源情報の収集が必要となるが、人力による従来の調査手法では、多大な時間と労力を要している
- ・一方で、レーザ測量などの新しい技術により、効率良く高い精度で森林のデータを得られるようになったことから、森林資源情報をデジタルデータとして取得するとともに、取得したデータを活用できる人材を体系的に育成することが求められている

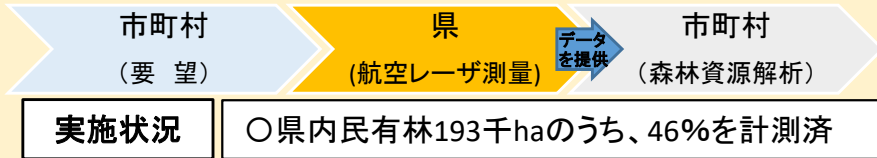
2 施策の方向性

森林資源情報のデジタル化を図るとともに、先端技術を活用できる人材を育成し、林業経営の効率化を推進

3 事業の概要

森林情報のデジタル化と人材育成を一体的に実施

【森林航空レーザ測量】(令和2年度～) (事業フロー)



【ドローンの導入】

- 各出先機関に、1台ずつ写真測量ドローンを導入し、災害調査等に活用
- 年2回、出先職員等を対象にドローン操作等の研修を実施
- 「ドローン等によるオルソ画像を用いた造林申請に関する取扱い」の作成

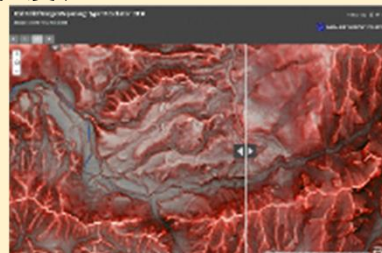
【ICT人材の育成研修】(令和4年度～)

○概要

- 森林組合等の職員を対象に、毎年10名程度、全7回の研修を実施

○特徴

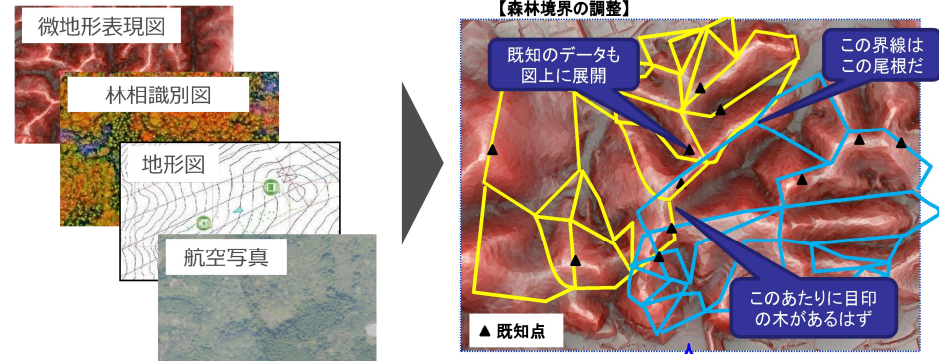
- 実際の森林データを用いて、座学と現地による実践的な研修を実施
- 同一職員が全研修を受講することで、体系的に知識を習得



(航空レーザ測量による赤色立体図)

測量データの活用推進

(森林資源情報をデジタル化)



【活用できる業務】

○森林経営制度の推進

- 森林境界明確化
・微地形表現図等の活用
- 効率的な集約化
・効率的なゾーニング
- ・意向調査の効率化

○ドローンによる写真測量データの活用

- 災害査定用資料
- 林地開発実施状況の把握
- 造林申請添付資料

○山間部地籍調査の効率化

- 一筆地調査の効率化
・微地形表現図等の活用